

わらわら

主な内容

P1…山西小6年生との交流会

P2…たんぽぽ活動報告1月～3月

P3…たんぽぽ活動報告1月～3月

P4…たんぽぽな風景その7他

e-mail:tanpopo-happy3232@opal.plala.or.jp



山西小学校6年生交流会

平成25年2月21日(木)、西原村立山西小学校6年生児童50名がたんぽぽハウスを訪れ、交流会が開かれました。5、6時間目の「総合的な学習の時間」を利用したこの交流会は毎年の恒例行事となっています。交流会では、ピザ作り・竹トンボ作り・指編みの3つのモノ作り体験を通して、仲間たちと触れ合い、たんぽぽハウスの目的や活動内容を学び、理解を深めてもらうのが目的です。講師には、聴覚障害の方とスタッフが務め、仲間たちは道具の準備や児童のフォローに回りました。竹トンボ作りと指編みは、施設前の村民体育館を使わせていただきました。ブルーシートの上で、前もって切り出した竹を慣れない小刀を使って、講師が作ったお手本を見ながら削りだしていきます。特に、竹トンボの羽を削り出す作業では高度な技術が必要とされ、5回も6回も失敗しては作り直し、何度もチャレンジしていました。そして完成した竹トンボを体育館で楽しそうに飛ばしていました。指編みは、男の子も女の子も上手に編み上げており、特に男の子がとっても上手に作っていたのが印象的でした。竹トンボ作りと指編みも講師が聴覚障害の方なので、ここでは自然と手話でのコミュニケーションとなり手話教室の様になっていました。たんぽぽハウス施設内ではピザ作りが行われ、3、4名の8班で約30cmのピザを各班2枚ずつ作ります。レシピに従って、材料を計り、混ぜ合わせ、生地作りとソース作り。各班、思い思いのピザを作ってもらいました。材料を混ぜ合わせ、手でこね、生地を作る工程では柔らかすぎたり、硬すぎたり、手に付いたり悪戦苦闘しながらも次第に良い生地に仕上がりと、発酵させて生地を伸ばし、ソースを乗せてトッピング。300℃のオーブンで約10分焼き上げると美味しそうなピザが焼けました。焼きあがったピザに、みんな歓喜の声。焼きあがったピザは切り分けて、みんなに振舞いました。今年もとても楽しい交流会となりました。

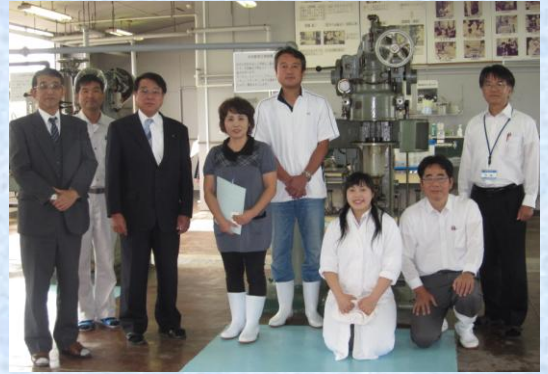
たんぽぽ活動報告10月～12月

今年 は 豊作

10月16日(火)、台風21号の接近が明日に迫っていたこの日、西原村小野地区棚田約4反のたんぽぽハウスの稲刈りをしました。西原村の藤田農機に稲刈りを頼み、コンバインでの稲刈りでしたが、田んぼの4隅はコンバインがターンをする為、前もって手刈りしておきます。今日中に稲刈りを終わらせなければ明日からは台風による雨との予報になっていました。そんな中、熊本市内から有難いことに5名のボランティアさんが駆けつけてくれました。イノシシがたんぽぽを荒らしているところがあったり、出水が出てぬかるんでいたり、手刈りしなければならぬところが結構あったために、今年は予想以上に時間がかかってしまいました。最後の田んぼにコンバインが到着した時はとくに日が暮れていて、途中、コンバインのキヤタピラが外れるというハプニングもあり、終わったのは午後8時過ぎ。それでも、昨年の2倍も過ぎ。その豊作に、喜びのあまり疲れも感じませんでした。



芥洋高校視察



10月25日(木)、天草市の芥洋高校の視察に行ってきました。今年度事業の一つに「地域づくりチャレンジ推進事業」という熊本の補助金を使った事業の中で、「阿蘇の地域性を生かした郷土料理のレトルト加工食品事業」というものをたんぽぽハウスが取り組むことになりました。試作品に取り組んでいました。ところが、レトルトや缶詰に対して全く知識が無かった為に失敗ばかりを繰り返してしまいました。そんな中、ある日の新聞に芥洋高校水産科の缶詰の記事が載っており、藁にもすがる思いで電話を掛けたところ、快く視察を受け入れて下さいました。先生方に、失敗した缶詰を見せ、試食頂いたところ、沢山の質問の間違った指摘も頂きました。かわらず、約6時間にもわたり、親切丁寧に工程の基礎をご教授いただきました。帰り際、温かい応援のお言葉までいただきました。芥洋高校の先生方との出会いは、暗闇の中で彷徨っていた私たちの光明のようでした。

布田地区秋祭り

毎年恒例だった布田地区の夏祭りが選挙の為中止となり、代って11月4日(日)、秋祭りが行われることになりました。そこで、今回の実行委員の方から、お祭りでの食事全般をたんぽぽハウスでやってもらえないかと依頼がありました。当日は雨の予報だったため、室内でのカラオケ大会になるということで、鉢盛を中心、焼きそばや豚汁を作らせて頂きました。たんぽぽハウスのメンバーには、元料理人の方が2人居られ、その方たちを中心にメニューを決め、買い出しから仕込みを全員で取り組みました。それぞれが手分けをして出来上がった鉢盛は、金額以上の出来栄でした。布田地区の方々にも大変喜んでいただき、仲間たちも大満足の出来でした。



職場体験学習



11月6・7・8・9日の4日間、熊本豊学校から井上桃君(16歳)が職場体験学習の為に、しはらたんぽぽハウスにやってきました。お母さんの友人からの紹介で、昨年、職場体験学習を受け入れた隣の大津中学校の男の子が、たんぽぽハウスをととても気に入って、その子のお母さんが是非にと勧めてくれたそうです。丁度、たんぽぽハウスでは、作物の収穫時期と重なり、増えた人手に願ったり叶ったりでした。井上君は生まれながらに耳が不自由でしたが、それ以外は元気いっぱいいな男の子で、すぐにたんぽぽの仲間たちとも打ち解けて、手話で会話したり、筆談でコミュニケーションをとったりしていました。職場体験とはいうもののたんぽぽハウスでは、朝から夕方まで農作業をしたり、慣れない包丁を持つたり、小さい体の井上君には大変だったことと思います。それでも毎日笑顔で充実した日を送っていたようでした。

農作業応援団

11月15日(木)より落花生の脱粒作業が始まりました。落花生の収穫は10月上旬に終わり、束にして実を上にして干します。これを「地干し」といい、1週間ほど干した後、畑で積み上げ「ぼちち」を作ります。そうしてさらに約1カ月干し上げます。今年はこの地干しの期間に長雨に当たってしまい、ぼちちが出来ず、地干しのまま1カ月が経ってしまいました。それでも作付面積は昨年の約倍。少しずつ終わらせるしかありません。そんな中、市内の「くまもと支援の会(旧くまもとホームレス支援の会)の方々」が連日お手伝いに駆けつけてくれ、1週間ほどで終わらせることができました。皆さん、ご協力誠にありがとうございました。



お歳暮商戦真つ只申

12月から始まるお歳暮商戦に間に合わせるべく、11月下旬からお歳暮製品作りが始まりました。たんぼぼハウスのお歳暮製品の全てがオリジナル製品であり、種まきから作っているものまであり、大変手が込み、時間のかかる製品ばかりです。しかし、その品質の良さから、年々注文の数が増えて来ていて、今年は昨年の1.5倍の発送を目標に取り組んでいます。そんな中、毎日、村内外から沢山のボランティアさんが駆けつけてくれました。羊羹用の小豆の選別や、ピーナッツ和えの素作り、ご汁の素作りなど、毎日大勢で取り掛かり、次から次に来る注文に対応してました。たんぼぼハウスだけではとてもできなかっただろうと思うと本当に感謝に堪えませんでした。



下小森ふれあい感謝祭



11月23日(金)、下小森地区にて「第20回下小森ふれあい感謝祭」が催されました。あいにくの雨天の為、企画されていた午前中のスポーツ大会は中止となり、公民館でのカラオケ大会となりました。司会には、熊本のローカルタレントうんば中尾さんが勤めて下さり、会場を盛り上げておられました。たんぼぼハウスも毎年声をかけて頂いており、今年もお好み焼きやサラダ卷、手作りコロツケなどを販売させて頂きました。雨天の中ではありましたが、婦人会、消防団、役員の方々の趣向を凝らした出し物が、笑いで会場を沸かせていました。

羊羹作りスタート

11月30日(金)、お歳暮セツトに入る羊羹作りがスタートしました。羊羹作りを委託しているのは隣町にある住本商店。店主の住本敏幸さんは御年83歳。住本商店は肥後名物の銅銭糖を古くから作られている伝統和菓子製造店です。ここ西原村でも住本さんの羊羹は昔から有名で、ご年配の方では知らない人は居ない位で、その製法は昔ながらの手作り製法。その作り方を頑固に守っておられます。一回に使用する小豆の量は20kg。銅製の大きな釜で炊き上げ、熱いうちにミートチョップパーで潰します。潰した小豆は流水を掛けながらザルに通し、薄皮を取り、残りは下のタライに沈殿していきます。この沈殿したものを「呉」といい、絞ると餡の出来上がりです。そこにオーガニック砂糖、高級糸寒天、水を加え、加熱しながら練り上げていくと、たんぼぼハウスお歳暮セツト一番人気の本煉羊羹「ほのか」の出来上がりです。



ボランティアクラブと交流



11月29日(木)、西原村立山西小学校ボランティアクラブ9名がたんぼぼハウスを訪れ、お菓子作りでの交流会をしました。今年は、たんぼぼハウスで収穫した自然栽培のサツマイモを使ったスイートポテト作りをやることになりました。蒸したサツマイモを熱いうちに皮をむき、潰して材料を混ぜて焼くだけのとても簡単なお菓子です。しかし、最初の熱々のサツマイモの皮むきから悪戦苦闘していました。各自思い思いの形のスイートポテトが焼きあがるととても興奮していました。出来上がったスイートポテトは、茶話会でのおやつとして頂き、自己紹介などをして交流を深めました。

西原村子育て広場と交流

12月21日(金)、たんぼぼハウスにおいて西原村子育て広場との交流会を行いました。年に3回の交流会をしており、今回はクリスマス間近ということもあり、ピザ作り教室を行いました。お母さん6名、お子さん9名、スタッフ3名にたんぼぼの仲間達がサポートに回り、狭い教室は、大賑わいでした。子供達も、お母さんのサポートを受けながら、生地をこねたり、ソースを作ったり、トッピングしたり、楽しそうにやっています。ピザが焼きあがると歓声が沸き、各自2枚ずつ、ご自分が作られた熱々のピザに皆さん舌鼓。もう1枚のピザは、家族にお持ち帰り、とても喜んでいただきました。





たんぽぽお歳暮2012 大盛況に感謝



昨年、たんぽぽハウスのお歳暮セットは4年目を迎えました。種まきから製品作りまで「を」コンセプトに、毎年改良を重ね、仲間たちが心を込めて作った製品は評判を呼び、前年度の200セットをはるかに超える287セットを販売する事が出来ました。これも偏に、たんぽぽハウスを応援してくださっている皆様のおかげだと思っております。今年はずらに、昨年から取り組んでおります、阿蘇の地域性を生かしたシトルト缶詰事業での製品を中心に、お中元セットも只今企画中でございます。その際は是非ともよろしく願いたします。今後ともたんぽぽハウスをよろしく願いたします。

たんぽぽな風景 その7

「ほのか」の奇跡

たんぽぽハウスのお歳暮セットの中でも一番人気の本煉羊羹「ほのか」。自然栽培小豆とオーガニック砂糖、高級糸寒天のみを使って作るその羊羹は素朴ながらも小豆の香りが際立ち上品な味と大評判でした。今から4年前、たんぽぽハウスで作った自然栽培の小豆が豊作で、それを使って羊羹を作ろうということになりました。熊本で有名な和菓子屋さんを片端から尋ね、事情を話し、お願いしました。しかし、帰ってくる答えは同じで「今は、製館所から館子を仕入れていて小豆からは作ってない。」とのこと。最後に、以前から知り合っていた大津町の住本商店の住本敏幸さん(83)にダメもとでお願いすると「昔は小豆から作ってたもんだが、今は製館所から館子を仕入れてる。そこまでこだわらんだらいつちよやってみるか!」と快諾して下さいました。その代り、力仕事で骨の折れる館子作りを手伝うことになりました。「俺の代で店は終わりたい...」と、いつもさみしそうに語っていた住本さん。最近、お孫さんが後を継ぐと言い出し、仕事を手伝いだしたと嬉しそうに報告して下さいました。いつまでもお元気で、そして、是非ともその技術をお孫さんに継承してもらいたいものです。



行事予定	
1月	1月4日 初詣
2月	2月21日 山西小6年生と交流会 2月23日 のぎく祭り
3月	3月5日 子育て広場と交流会 3月21日 山西小学校卒業式

頼もしい応援団



12月のある日、毎日、お歳暮製品作りに追われていたころ、西原中学校ボランティアが応援に駆け付けてくれました。エプロンとバンドナを着けると製品の一つ、「ねぎ味噌ラー油」の葱切りを慣れた手つきで切り始めました。数々のチャリティーバザーをやってきたこともあり、包丁さばきはなかなかのもの。たんぽぽハウスの頼もしくもかわいい応援団です。

編集後記

12月28日、たんぽぽハウスの大掃除のときのこと。各自別れて普段出来ていない所のお掃除を頼みました。梯子を使って高い窓を磨く人、四つん這いでトイレを掃除する人、両手一杯にゴミを片付ける人、お世話になった軽トラックを掃除する人、確かに、手際は悪かったり、お世辞にも早いとは言えなかつたり、時間がかかったりしますが、みんな一生懸命に、誰一人手を抜く者が居ません。大掃除の後、お持ち帰りのお弁当、御餅、お歳暮セット、わずかなボーナスをもらって喜んでくれる仲間たち。私たちがスタッフは、彼らから多くのことを教えられています。喜んで帰っていく彼らを見送りながら、みんなの幸せを願わずにはいられませんでした。

編集委員 久保田